

La La La Human Steps

ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス

S a l t [ソルト]

作・振付：エドゥアール・ロック

出演：エミイ・プロガン／イヴォヌヌ・クタラン／ミルコ・エクター／ローレンス・ラブソン／
ジェイソン・シンブリー・ホームズ／ステファニー・スレイター／ナオミ・スタイクマン／
リック・ギャヴィン・ティジャ／ソフィア・ツジャカ

演奏：アンヌ・マリ・キャシディ（チェロ）／コン・キー・ンジョ（ピアノ）
ジャン・クロード・バトリ（エレクトリック・ギター）

音楽：デヴィッド・ラング／ケヴィン・シールズ 美術：ステファン・ロワ 照明：ジョン・モンロー
衣装：ヴァンダル／ジェラルド・マユ

11.26.fri.7:00p.m./11.27.sat.3:00p.m.(2回公演)

滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール

BIWAKO HALL / CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

主催 財団法人びわ湖ホール

後援 カナダ大使館、ケベック州政府在日事務所

企画制作 彩の国さいたま芸術劇場/conversation

共同製作 彩の国さいたま芸術劇場、Théâtre de la Ville (Paris), Het Muziektheater (Amsterdam), deSingel (Antwerp), National Art Centre (Ottawa), Theater der Stadt Remscheid (Remscheid), Association Léonard de Vinci-Opéra de Rouen (Rouen) with special support of Internationale Tanzwochen Wien (Vienna) and Foundation Daniel Langlois (Montreal)

世界のバレエ・ダンス・シーンをリードする、革命のカンパニー

昨年10月の彩の国さいたま芸術劇場での初演から1年。

世界各地で絶賛を浴びたラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの新作『ソルト』、

待望の凱旋公演。1999年、21世紀への橋渡しにふさわしい、過激で究極なバレエ！

彩の国さいたま芸術劇場でレジデンス・世界初演を行ったラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス。カナダ、ヨーロッパを巡回して再来日。リワークされた作品『ソルト』、エドゥアール・ロックの成果に乞うご期待。

ソルト 海が消えたあとに残るもの

La La La Human Steps / エドゥアール・ロック

私は以前から、身体やモノのもつ形、そのなかでも特に動きに興味をもってきました。身体やモノは、普通、明確な形を有している、と考えられていますが、実際には思考に似て、不明確で捉えにくいものだと思います。手を早く動かせば、もはや手の形には見えませんし、木は、静止しているときと風に揺れているときでは形を変えます。ダンスというのは、身体やモノに対する一般的な理解を変える、またはそうしたことを具体的に示すことができるのです。

この作品を構成している暗い舞台空間、複雑さを伴いつつ、私の陶醉状態を高めつつけるコントロールされた身振りによる言語。地上からダンサーの身体を引き離しつつ、あたかも霊的存在であるかのように希薄なものとして彼らをこの世界に引き留めるポワント。私は身体が動く際のその動きの過程を、身体を形作る皮膚や骨格、また身体に動くことを命ずる思考と同じくらいリアルで大切なものとして、今でも考えているのかもしれませんが。動きとは「沈黙の声」であり、個人的かつ社会的な無意識の、重要な指標です。しかし、プロセスはあくまで抽象的なものであり、私の作品は、見ることの欲望をかき立て、視覚的な関係性を観察すること以外には、いかなる絶対的なものも明らかにすることはありません。モノとモノとのつながりこそが、わたしが理解したい唯一の事柄なのです。

完全なコントロールというものは、この世には存在しません。観客席に居合わせた人々によってこそ命が吹き込まれるのです。ですから、ステージの上のすべての活動は失敗への扉が開かれている必要があり、また物事は不完全でわずかに未完成であると感じることは、とても重要なことだと思います。

ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス

振付家、映像作家であるエドゥアール・ロック率いる、モンリオールを拠点とするダンス・カンパニー。1980年のデビュー以来、これまでになく自由で、もっとも爆発的なエネルギーを有するダンス・カンパニーとして活動を続けている。

「ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス」の作品は、超人的なダンス・テクニックや特徴的な音楽、美しいセット、そしてエドゥアール自身による映像のコンビネーションによって構成されているものが多い。ダンスは光速のスピードで展開し、彼らの身体は水平に、垂直に回転する。危険に満ちたそのパフォーマンスは、「重力の不可能性を超越している」「凶暴な白鳥たち」などと形容されている。

「ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス」は、バレエ・ダンス・ファンのみならず、音楽や美術ファンからも注目されている。デビュー直後からカナダ、アメリカで人気を博したのに続き、1987年からはヨーロッパやラテン・アメリカ、アジアでも公演を重ね、これまでに延べ40万人以上の観客を集めている。人気、実力ともまさに世界のトップ・カンパニーのひとつである。

また、カンパニーの単独公演に加えてデヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパ「イエロー・シャーク」、ソニック・ユース、ナム・ジュン・パイク、キャロル・ロールなど、他分野のアーティストとのコラボレーションも多い。

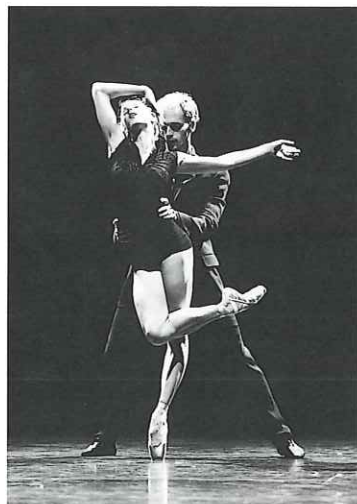


photo: 瀬戸秀美 / 彩の国さいたま芸術劇場

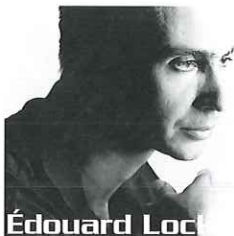


photo: Jean-François Bérubé

エドゥアール・ロック (振付家・芸術監督)

1954年モロッコのカサブランカ生まれ、カナダのモンリオールに育つ。大学で中世英文学を学ぶかわら、19歳でダンスを始める。1975年から79年まで、グループ・ド・ラ・プラス・ロワイヤル、グループ・ヌーヴェル・エール、グラン・バレエ・カナディアンなどのモンリオールの様々なダンス、バレエ・カンパニーで活躍。1980年に、ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの前身となる、ロック・ダンサーズを結成。以降、次々と作品を発表し、常にダンス・シーンの注目を集めてきた。

ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの活動の他にも、オランダ国立バレエ、グラン・バレエ・カナディアン、ネザーランド・ダンス・シアターIへの振付や、デヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパのコンサートの演出など、幅広い活動をしている。

PRESS REVIEW

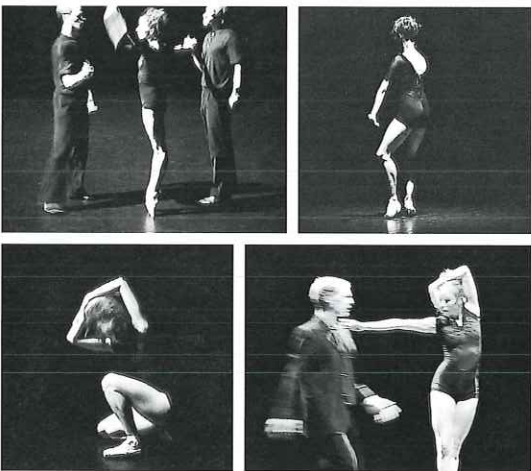
★時にパルスのようにテンションがスパークして、作品はきらめくように訴えかけてきて、我々の想像力を過敏に刺激する。(朝日新聞)

★反復を繰り返す音楽がピアノとチェロで演奏されると、舞台は憂鬱をたたえる。濃厚な終末感をただよわせ、生命のたそがれを感じさせる舞台だった。(日本経済新聞)

★実際の動きそのものは、過激に複雑である。タップ・ダンスのフット・アタックにポワントで立つバレリーナの長い直線を組み合わせ、足をはさみのように使って空気を切り取り、リフトやジャンプで空間を切り貼りしていく。(Japan Times)

★『ソルト』の主だった魅力は、ダンサーによって見事に表現されたロックの入念な振付とコレオグラフィックな映像の独創性と美しさ(中略)、そして舞台に見事に溶け込んだミュージシャンの存在であろう。(VOIR誌)

★ダンサーに速く踊るよう要求するのは、視覚的幻想を創り出すためだ。彼らの身体が、小さな粒子のごとく透き通って見えてくるのだ。(ELLE QUEBEC誌)



ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス Salt [ソルト]

11.26.fri.7:00p.m./11.27.sat.3:00p.m.(2回公演)

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

チケット発売 9月4日(土)10時 友の会優先発売 9月1日(水)10時

S. ¥5,000 A. ¥4,000 B. ¥3,000 ※6歳未満のお子様はご入場できません。

◎チケット取り扱い／びわ湖ホールチケットセンター 077-523-7136

チケットぴあ 06-6363-9999 / チケットセゾン 06-6232-9999

京都音協プレイガイド 075-211-0261

◎お問い合わせ びわ湖ホール 077-523-7136

※やむを得ない事情により出演者が変更になる場合があります。



財団法人びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1

<http://www.biwako-hall.or.jp/>

[びわ湖ホールへの交通のご案内]

大阪から39分、京都から9分、

名古屋から60分(JR利用・大津駅着)

●JR大津駅よりバス約5分(びわ湖ホール前下車)

●JR琵琶湖線「大津」駅、「膳所」駅より徒歩約15分

●京阪電鉄「石塚」駅より徒歩約3分

●名神高速大津ICより約5分(有料駐車場854台)